

カテゴリー理論による多義形容詞の一考察

——形容詞「重い」に修飾された名詞を中心として——

毛 勇・曹 捷平*
(香川短期大学・*西安外国語大学)

はじめに

従来、形容詞の多義性を研究する時、形容詞自身の多義性を対象として考察することが一般的な方法である。しかし、筆者は、最近の研究過程の中で、多義形容詞と定義されたものが持つ多義性は、果たして、その形容詞のみによってもたらされたものか、また多義形容詞の研究に新たなアプローチが出来るかどうかという問題意識を持ち始めた。本稿は、この問題意識から出発して、形容詞の多義性について新たなアプローチを試みるものである。このアプローチの特徴は、形容詞自身の多義性または辞書の解釈による語レベルの多義性の解明ではなく、連体修飾文という文レベルにおける形容詞に修飾された名詞の角度から考察するものである。つまり、多義形容詞がどんな名詞を修飾できるのか、そしてかかる名詞同士には如何なる関連性を持っているのか、また、それらの名詞のカテゴリー化から形容詞の多義性を探究することが、本稿の目的である。なお、ケーススタディーとして、常用形容詞「重い」に修飾された名詞に焦点を合わせることにする。

I. 先行研究とその研究方法

従来、「重い」については、森田(1984)、青谷(2004)、楊(2012a)(2012b)などの研究が見られる。森田(1984)は、表Iのように「重い」の意味用

法を体系的に物理的、肉体的・生理的、精神的という三つの部分に分けている。青谷(2004)は、表IIのように、「重い」の意味をまず「物理的・心理的に重量がある様子」、「程度が高くて深刻な様子」に分類し、さらに「物理的・心理的に重量がある様子」を「目方」「大量」「憂鬱」「不快感」「慣用表現」という五つの語義に、「程度が高くて深刻な様子」を「過酷」「重大」「重要」「深刻」という四つの語義に分けている。そして、表IIの結果に基づき、高校生を対象に行われたアンケート調査の結果により、「重い」の意味ネットワークを言語心理学的な手法で分析した。楊(2012a)は、日本語形容詞「重い」と中国語形容詞“重”を対象に、それぞれの連体修飾用法と連用修飾用法を比較してみた。楊(2012b)は、日本語形容詞「重い」の装定用法、述定用法及び同じ文脈の中で二者が転換できるかどうか、ということ考察した。

周知のように、上記の先行研究とその研究方法は、各氏各々の角度から考察を展開されたものであり、それぞれ有益なヒントを示唆してくれた。その

表I 森田(1984)における「重い」の語義分類¹⁾

物理的	目方	石, 鉄, バーベル
	動き	機械の回転, 車両の牽引
肉体的 生理的	動き, 動作	腰, 口
	圧迫感	頭, まぶた
	刺激	音, 音色
	程度	病気
精神的	動作	足取り
	圧迫感	心, 気分, 気
	程度	責任, 任務

平成26年1月6日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 経営情報科
TEL 0877(49)8046 FAX 0877(49)8046
Email mao@kjc.ac.jp

表Ⅱ 青谷（2004）における「重い」の意味分類²⁾

(1) 物理的・心理的に重量がある様子		(2) 程度が高く、深刻な様子	
語義	用例	語義	用例
①目方 (基本義)	荷物	⑥過酷	罰金
	石		処分
	体重		税金
	ドア		罰
②大量	運動	⑦重大	労働
	食事		責任
③憂鬱	雰囲気		意味
	気分		任務
	心	役目	
④不快感	胃	罪	
	頭	問題	
	まぶた	⑧重要	地位
	足取り		意味
⑤慣用表現	腰が重い	任務	
	口が重い	役目	
		問題	
		⑨深刻	病気
			傷
			意味
			罪
		問題	

共通点として、「重い」という形容詞自身の多義性を対象として考察したものであると思われる。その研究方法の限界について、一部の研究者が下記のような指摘もある。

国広（1997）は、「多義の示し方が異なる理由はいろいろと考えられる。主なものとして、まず多義を区別するときの精度の違いがある。文脈の影響を受けて違って見える語義を細かく追及していけば、多義はいくらでも数を増す。また、多義を区別する時の意味的な基準の取り方の違いということもある。」³⁾と指摘していた。つまり、形容詞自身の多義性解釈または辞書による多義形容詞の語義解釈には、「区別する時の精度の違い」や「意味的な基準の取り方の違い」などの問題点があると指摘されている。

また、Goldbergなどで提唱されている「構文文

法（Construction grammar）」の考え方によると、「言葉の多義性とは、それ自身の持つ語彙的な特性によってのみ表されるのではなく、それが用いられる格パターン（構文）も重要な役割を果たしているのである。」⁴⁾という見解がある。

Ⅱ. カテゴリー理論による基本思考

形容詞の多義性について新たなアプローチを展開する前に、我々は、まずカテゴリー理論を概観しながら、それに基づいていくつかの基本思考を下記のように整理しておく。

我々人間は身の回りのものをカテゴリーに分類して認識することが習慣化していると思われる。故に、認知言語学では、さまざまなものをひとまとめにしてとらえる心の働きをカテゴリー化と呼んでいる。カテゴリー化により、人間の視野に入ったものが概念化されるようになる。カテゴリーは全体の構造から見て階層的な配列をなしている。如何なるカテゴリーにもプロトタイプがあり、カテゴリー化は、通常プロトタイプを中心に行われていると思われる。カテゴリーの中の代表的メンバーはプロトタイプのメンバーと、プロトタイプのメンバーから離れたメンバーは周辺メンバーと呼ばれている。プロトタイプのメンバーと周辺メンバーは類似性や隣接性などによって結びついている。

従って、表現の道具としての言葉もカテゴリー化することができる。多義形容詞に修飾された名詞も一つのカテゴリーとして認められ、人間の認知能力によって意味的に類型化されることを通してカテゴリー化できると考える。そして、論理上多義形容詞に修飾された名詞カテゴリーはプロトタイプのメンバーと周辺メンバーからなっていると考える。プロトタイプのメンバーと周辺メンバーは、それぞれの特徴を持っていながら、類似性や隣接性で繋がっていると考える。つまり、多義形容詞に修飾された名詞カテゴリーのメンバー同士は、幾つかの共通的な意味属性を持っており、意味ネットワークを形成していると思われる。

また、多義形容詞に修飾された名詞カテゴリーにおいては、認知的な際立ち程度が異なっていると考えられる。普通、認知的な際立ちが高いプロトタイ

ブ的メンバーから、認知的な際立ちが低い周辺メンバーへと、内在したメカニズムで放射的に拡張されていると思われる。その内在した拡張メカニズムは、一般的に比喩の下位であるメタファー、シネクドキー、メトニミー⁵⁾が働いていると認められている。

Ⅲ. 形容詞「重い」に修飾された名詞に対する考察

上述した基本思考に従って、我々は、まず多義形容詞「重い」に修飾された名詞群をカテゴリーとして捉え、このカテゴリーを構成した各名詞を類型ごとに分類する。そして、各名詞間の意味的関連性及び拡張メカニズムを究明してみる。

なお、考察の素材として、インターネット上で公開された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)⁶⁾を採用した。作業方法としてその中から、形容詞「重い」に修飾された名詞の用例500文を抽出し、その意味特徴に基づき、整理・分類を加えることにした。便宜を図るため、類型ごとに、500文の中から十分の一弱に相当する41の例文を挙げながら考察してみる。なお、かかる名詞は主に形容詞「重い」に連体修飾(装定)として修飾された名詞であるが、形容詞の用法には装定と述定という二つのパターンがあるため、述定の用例も考察の対象とする。

類型①

- (1) 起きるのには重い体が言うことを聞かず、眠りたくても頭の一部分が冴えてしまうときがあります。

『花の命』清水啓子 日本随筆家協会 2002

- (2) 重い体重を支えなければならないために、関節炎や椎間板ヘルニアなど、関節や運動器官の疾患になりやすい。

『都会で暮らす犬と猫と人と』利岡裕子 婦人画報社 1998

例(1)(2)のように、形容詞「重い」に修飾された名詞は「体」「体重」のような言葉である。「重い」の基本義は〈下に向けて引かれた動力が強く、重量がある様子〉である。我々は地球から重力を受

けているので、重力が人間に働く力を身体の重量として感じている。そもそも身体の重量を表すために、形容詞「重い」が生まれたのであろう。従って、身体または身体の重量を表す名詞が「重い」に修飾された名詞カテゴリーの中では、プロトタイプの地位を占めていると考えられる。

類型②

- (3) わたしは重いまぶたとタメをはるくらい重い頭を、なんとか支えながらドアを閉め、部屋をふり返った。

『フォーチュン・クエスト』深沢美潮 角川書店 1990

- (4) 重い足と気分を引きずって焚火に帰ると、ミランションが待っていた。

『面影は幻の彼方』冨木忍 富士見書房 1994

例(3)(4)から分かるように、類型②は、体の一部分を表す名詞同士である。人間は体の一部分で感じた、下に向けて引かれた感覚を描写する時、地球からの引力が体全体に働く重量感とよく似ているので、つい「重い」で修飾してしまうのであろう。こういう感覚には、ほとんど「重量が感じられて、不快だ」というネガティブな意味合いを含んでいる。

類型③

- (5) 10年以上前に初めて飲んだときには硬水独特の重い味に抵抗があって、注文したワンケースを飲みきることができませんでした。

『和樂』2002年8月号 小学館

- (6) ステーキかハンバーグ、チリ、くらいだ。どれも重い料理で、どこでも味は同じ。

『食べるが勝ち!』星野知子 講談社 2002

類型③では、「重い」に修飾された名詞は「味」や「料理」など、嗅覚と関連のある名詞である。濃い味が人間に与えた感覚には圧迫感があり、人間の身体や体の一部分で感じた重量感と何らかの共通点がある、ということが伺えるのであろう。

類型④

(7) 庭はそんな多くの肉の甘く重い腐臭に充ちていた。

『ノルウェイの森』村上春樹 講談社文庫 1987

(8) その臭いの底に、もっと濃く厚ぼったい臭い、充滿した重い臭いが横たわっていた。

『死者の奢り』大江健三郎 新潮文庫 1958

例 (7) (8) においては、「重い」が「臭い」などの名詞を修飾している。人間は強い臭い刺激を受けさせられた時、まるで重量のあるものに圧迫されているように、気持ちが悪くなるわけである。それで、「重い臭い」「重い腐臭」などの言い方が生まれたのであろう。

類型⑤

(9) 万里子が駆け上がったあとの二階は、重い闇となって静まりかえってはいるものの、そのなかに息をひそめる若い生命までは隠す…

『銀河の雫』高樹のぶ子 文芸春秋 1996

例 (9) のように、あまりにも目の前の光景が暗過ぎるので、まるで体全体が周りの暗さに覆われて圧迫されているようであるから、「重い」と共起できるのであろう。なお、我々の調査では、「闇」のような、視覚を表す名詞の用例は一つしか見つからなかったことを付言したい。

類型⑥

(10) 重い足音をたてて、大関警部が石を運んだ。

『犯人さん、復讐です!』辻真先 徳間書店 1988

(11) 白井は重い口調で言った。

『札幌殺人事件下』内田康夫 光文社 1995

例 (10) (11) のように、類型⑥では主に「足音」や「口調」などの発声器官、または音声を表す名詞が「重い」に修飾されている。これらの名詞にはほとんど「話す内容や感じた音が明快でなく、圧迫感を帯びる」などのニュアンスが潜んでいる。

類型⑦

(12) 純平は、重い気分で家に帰った。

『101回目のプロポーズ』野島伸司 角川書店 1992

(13) これが最後の別れかと、やはり重い心で、夕方見送った。

『神の微笑』芹沢光治良 新潮社 2004

例 (12) (13) では、「重い」が「気分」、「心」のような心理・感情を表す名詞を修飾している。晴れ晴れしくない気持ちが我々に圧迫感を感じさせる。こうした圧迫感は重量のあるものを持っている時と同じように、垂直的に感じていることから、憂鬱な気持ちや心理を表す名詞が「重い」に修飾されるのであろう。

類型⑧

(14) 帰った娘たちのうち一万数千人は重い病気にかかっており、その四分の一は肺結核であった。

『日本残酷物語』成田龍一 平凡社 1995

(15) これは、抗がん剤ですとか輸血用血液製剤につきましては非常に重い副作用を発生する可能性が高い。

『国会会議録』第129回国会 1994

例 (14) (15) のように、類型⑧においては、「重い」に修飾されているものは、主に病気及び病名を表す名詞である。ひどい病気が治れるかどうかという不安に悩んでいる人間の心は憂鬱である。故に、類型⑦と同様に、類型⑧では、人間は病気への不安からもたらされた感覚を、病気や病名を表す名詞に託して、「重い」で修飾されているのである。

類型⑨

(16) その場合に大きな重いウエイトを占めるのが、人事ビジョンである。

『企業再生の人事戦略』清水秀晃 金融財政事情研究会 2004

(17) 不得手な道悪に泣かされたり、重い重量を克服できなかつたりで、しばしば大敗すること

もあって、…

『心に残る名馬たち』原良馬 PHP研究所 1996

類型⑨では、「重い」が「ウエイト」「重量」などの名詞を修飾している。人間の体重を修飾できる「重い」が、もちろん体重の上位語を修飾する可能性は大きい。従って、類型⑨は、類型①とシネクトキーによって関連されているのである。

類型⑩

(18) 袖がかすかに慄えているのがわかり、何か見えない重いものがその背にのしかかっているようであった。

『金閣寺』三島由紀夫 新潮社 1990

(19) 大きな重い洋服たんすが五十センチぐらい動いており、びっくりしました。

『恵子は必ず生きています』有本嘉代子
神戸新聞総合出版センター2004

類型⑩では、例(18)(19)のように、「重い」に修飾された名詞は主に「もの」や「洋服たんす」などの物質名詞である。これらのものから垂直的に体に働く力が重力の感じと似ているので、「重い」と共起するようになるのである。無論、「重い」で修飾され得る名詞は、主体である人間の感じによって多種多様であるので、形も重量も大きいものもあれば、そんなに大きくないものもあるのである。

類型⑪

(20) 重いドアをしめ、鍵をかけ、上と下に大きなかんぬきをかけた。

『事件当夜は雨』ヒラリー・ウォー 東京創元社 2000

(21) 女の子は重い扉を開けて、会場の中へ入って行った。

『華麗なる探偵たち』赤川次郎 徳間書店 1984

類型⑪では、「重い」に修飾された名詞も戸などの物質名詞であるが、前の類型⑩に比べてみたら、人間の身体や手に働く力の方向が異なっていることが分かる。つまり、類型⑩では、「重い」が垂直の

方向に重力を感じているものにかかっているが、類型⑪では、横に向かってなかなか前へ押し進めない物の類を修飾している。

類型⑫

(22) 毎日が重いシーンの撮影で、すべてが終わった時は半分抜け殻のような状態でした。

『TVびあ』細田ゆり 2005年9月7日号

(23) 以前つけていた選手が松井選手ということですけど、本当に重い番号。

Yahooブログ 2008

例(22)(23)のように、類型⑫は、「シーン」や「番号」などの物質名詞である。こういう名詞同士は、具体的な物を表し、そして「とても重要だから、重視しなければならぬ」などのニュアンスを持っている。

類型⑬

(24) しかもその楔は、重い歴史と文化の層としての厚みを最も正統的に伝承しながら、である。

『都市民俗学』望月照彦 未来社 1990

(25) その上『カップルズ』に描かれているような重い市民の生活共同体意識も、同じ階級の複雑な関係も社交も存在しない。

『奥野健男自選評論集』奥野健男 学芸書林 1990

類型⑬は、「歴史」、「文化」、「意識」などの抽象名詞である。こういう名詞は「重い」に修飾されると、ほとんど「重要で、重みがある」などの意味合いが含まれている。

類型⑭

(26) これから年齢を重ねられるとそれが年輪となって、ますますいい男、重い役者になられると思います。

『和楽』小学館 2003

(27) だからサザレヒコのムラでは、月をもっとも

重い神として祀り、毎年秋の満月におこなう
月祭りには、・・・

『裔を継ぐ者』 たつみや章 講談社 2003

類型⑭では、「重い」に修飾された名詞は人間や
人間のような者である。こういう者はほとんど「尊
敬すべき、重みのある」存在である。

類型⑮

(28) 地方自治体に対する数ある委理事務の中でも
極めて重い仕事でございます。

『国会会議録』第132回国会 1995

(29) テレビは、外見を飛躍的に変えながらも、新
たな重い課題を背負うこととなった。

『朝日新聞夕刊』2003

類型⑮は、「仕事」や「課題」などの名詞から構
成している。「重い」に修飾されると、これらの名
詞には普通「重大で、あまり簡単に完成させること
ができない仕事」などのニュアンスがある。

類型⑯

(30) 恋はすてきだけど、重い責任もついていて、
栄ちゃんも大変だなあと思いました。

『看護婦一年生』阿部初枝 筑摩書房 1988

(31) 離婚試合の延長、再試合は時間的にも精神的
にも重い負担です。

『わかりやすい離婚』平山信一 自由国民社 2002

例 (30) (31) のように、類型⑯は「責任」や「負
担」などの名詞からなっている。これらの名詞が
「重い」と共起すると、「重大で、負担がづらい」な
どの意味合いが含まれている。

類型⑰

(32) 五逆の罪人を嫌い、誹謗の重い罪を知らせよ
うとされたのである。

『親鸞』真継伸彦 朝日新聞社 1987

(33) 米政府が厳しい姿勢を示しているのは「脱走

罪という重い犯罪の容疑者を簡単に見逃せ
ば、米国内で批判される」(日米関係筋) た
めと見られる。

『読売新聞 朝刊』2004

類型⑰は、「罪」や「犯罪」などの名詞である。「普
通ではなく、重大な罪」などの意味を表す時、よく
「重い」と共起して使われる。

類型⑱

(34) 命令を受けた銀行は自己資本の充実を急がな
いと、業務停止命令などさらに重い処分を受け
ることになる。

『朝日新聞夕刊』2002

(35) 異端者は、業火に焼かれて死ぬという最も重
い刑罰を受けなければならない。

『あまりに残酷な拷問の世界』今村幸介 青春出版社 1999

例 (34) (35) のように、過酷な「処分」や「刑
罰」などを課されると、人間は精神的に圧迫感を感
じる。従って、こういう名詞が「重い」と共起でき
る。

類型⑲

(36) 申告を忘れると重い税額が記載された納税通
知書が届くこともあります。

『マンション購入完全チェックリスト』大森広司

日本実業出版社 2001

(37) 子供をこれ以上産みたくないという理由の一
つに教育費の重いことが挙げられていること
も承知しておりますが、必ずしもそれだけで
はない・・・

『国会会議録』第126回国会 1993

類型⑲は、「税額」や「教育費」などの名詞から
なっている。これらの名詞が「重い」と共起すると、
「高すぎて、払いづらい」などの意味が生まれてく
る。

類型⑳

- (38) 船の予想外の大きな揺れが、水の重い動きを園子の身体の底まで運んで来た。

『夢時計下』黒井千次 講談社 1997

- (39) 鮫島の心には、須藤あかねの姿を見たことで生まれた、重い衝撃が加わっていた。

『屍蘭』大沢在昌 光文社 1999

類型⑳では、「重い」が「動き」や「衝撃」のような、ある動作性を有している名詞を修飾している。こういう名詞が「重い」に修飾されると、「動作が鈍く、なかなか前へ進めない」などのニュアンスを持つてくる。

類型㉑

- (40) 利用開始後からよくパソコンがフリーズしたりするので、メッセージはかなり重いソフトなのでしょうか？

Yahoo! 知恵袋 2005

- (41) 今まで経験ないくらい PC が重いのですが、クリックしても1分くらい砂時計が消えません。

Yahoo! 知恵袋 2005

例 (40) (41) では、「重い」に修飾されたのは「ソフト」や「PC」のような、情報機器関連分野の名詞である。ここでの「重い」は、容量の大きいプログラムやアプリケーションなどで、プログラムの負荷が大きくなるために、処理が遅くなっている状態を指すものである。ゆえに、速く反応できないパソコン及びその機器を表す名詞と共起することができる。

上記の考察を通して、我々は、形容詞「重い」に修飾された名詞カテゴリーが21の類型から構成されているという結果を得た。また、以上の41の例文を含め、今度の調査で得た227の名詞を分類すると、表Ⅲのようにまとめることができる。(P.8を参照されたい。)

IV. 形容詞「重い」に修飾された名詞のカテゴリー化

上述したように、形容詞「重い」に修飾された名詞カテゴリーは、類型①～類型㉑からなっている。周知の通り、認知言語学では、カテゴリーを構成した各メンバーの間ではメタファー、シネクドキー、メトニミー等のメカニズムでつながっていると説明されている。従って、形容詞「重い」に修飾された名詞同士の意味ネットワークは、図Ⅰのように示すことができる。(P.9を参照されたい。)

図Ⅰでは、類型②は、プロトタイプの類型①と全体一部分という関係でシネクドキーによって関連されている。類型③④⑤⑥⑦は、身体的関連性が見られるので、メトニミーによって結びついている。類型⑧は、まず類型⑦とメトニミーによって結びついており、そして類型⑩ともメタファーでつながっている。類型⑨も、類型①と全体一部分という関係にあるので、シネクドキーで関連されている。また、類型⑩⑪は、類型⑨とメタファーで関連している。類型⑩は、類型⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱とメタファーで、類型⑪は、類型㉑とメタファーでそれぞれ結びついている。これらの類型が、類似性や隣接性によってつながっていると同時に、各類型(メンバー)の地位が同等なものではないことが読み取れる。類型①がプロトタイプの地位を占めており、類型②～㉑が周辺の地位を占めている。周辺類型(メンバー)は内在したメカニズムでプロトタイプのメンバーである類型①と関連している。また、類型①を中心に、カテゴリーメンバーとしての典型度も段階的に低くなっていくと読み取れる。

これらの類型を更に2段階に抽象化し、カテゴリー化をしてみると、表Ⅳのようになる。(P.9を参照されたい。)

後掲の表Ⅳより、我々は、第1段階で抽象化した属性として、①②を「体」、③④⑤⑥を「五感」、⑦⑧を「心理」、⑨⑩⑪を「目方」、⑫⑬⑭を「重要」、⑮⑯⑰を「重大」、⑱⑲を「過重」、㉑を「鈍い」にまとめることができた。そして、その上に第2段階抽象化をしてみると、「体」、「五感」、「心理」を「身心」、「目方」、「重要」、「重大」、「過重」を「程度」、「鈍い」を「動作」にまとめることができた。

表Ⅲ 「重い」に修飾された名詞カテゴリー

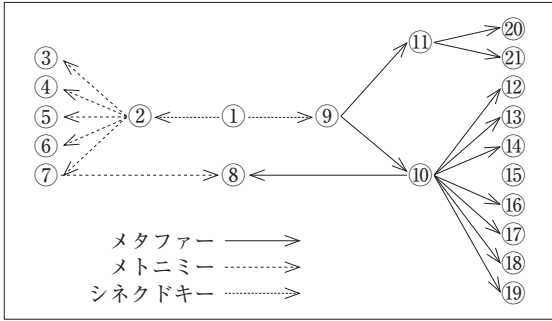
形容詞	形容詞に修飾された名詞カテゴリー
重い	①体, 軀, 身体, 人体, 体軀, 心身, 生身, 死体, 体重
	②唇, 肩, 口, 腰, 髪, おなか, 胃, お尻, 頭顱, 胸, 腹, 掌, 顔, 下腹部, 首, まぶた, 頭, 足
	③味, 食事, 料理, 一品
	④臭い, 腐臭
	⑤闇
	⑥音調, 音, 口調, 声, 足音, 響, 槌音, 話, 言葉, 音色, 吐息, 溜息, 地響き, 呼吸, 氣息, 静けさ, 歌詞
	⑦気分, 心, 感じ, 気, 心持ち, 感情, 表情, 思い, 不安, 悔恨, 感覚, ストレス, 諦念, 苦痛, 空気, プレッシャー
	⑧病気, 苦痛, 苦患, 病人, 障害, 症状, 被害の程度, 副作用, 後遺症, 糖尿病, 躁病, 心臓病, うつ病, ノイローゼ, 肝硬変, 気管支炎, 生理痛
	⑨重量, ウエイト, 比重
	⑩衣装, ズボン, 上着, 靴, 服, 夜着, ふとん, 鞆, 財布, もの, 荷, 荷物, 洋服たんす, 買い物, パン, 鉄鍋, 石鍋, ドラム缶, 箱, 戦闘機, 大根, ボール, 球, 車, 部品, 鎧, 猟銃, 物質, 雑誌, 辞書, 食器, 材木, 実り, 動物, 湿気, 惑星, 薪, 長槍, 掃除機, 機体, 個体, 液体, アルミケース, 肉, おもり, 文鎮, 円盤, 首飾り, 道具, 資材, バイク, 掛け金, 厚底, トラック, 正イオン, ペダル, 原子核, 鉄棒, 迫撃砲, 丸太, 商品, 鋳物, 本, 梁, 雪, 石
	⑪ドア, 扉, ガラス戸
	⑫小説, 短編, シーン, 番号
	⑬意味, 歴史, 文化, 現実, 過去, 意識, 名称, 待遇, 賞, 存在価値, 道理, テーマ, 命, 夢, 中身
	⑭神, 役者
	⑮事, 仕事, 宿題, 作業, 借り, 課題, 難点, 問題, 任務
	⑯責任, 責務, 職責, 役, 役目, 役割, 負担, 務め, 規律, 義務
	⑰原罪, 犯情, 犯罪, 罪, 情状
	⑱罰, 処罰, 法定刑, 罰則, 処分, 刑罰, 量刑, 処理
	⑲教育費, 税率, 税額
	⑳足取り, 動き, 衝撃, 運動, パンチ, 展開, 帰り
	㉑知恵袋, LANハブ, ページ, PC, ソフト, 動画, アクセス, パソコンの動き

故に、最終的に形容詞「重い」に修飾された名詞は a.「身心」、b.「程度」、c.「動作」という三大意味群に収斂していくことができた。

終わりに

本稿各節を通して考察してきたように、多義形容

詞の研究について、カテゴリー理論を用いて、連体修飾文という文レベルにおける形容詞に修飾された名詞の角度からアプローチすることが可能である。我々は、形容詞「重い」に修飾された名詞を整理、分類を通してカテゴリー化を試みた。得られた結論として、①多義形容詞「重い」が21類型の名詞を修飾することができる。そして、②各類型の間は、共



図Ⅰ 形容詞「重い」に修飾された名詞の意味ネットワーク

表Ⅳ 「重い」に修飾された名詞のカテゴリー化

形容詞	第2段階属性	第1段階属性	類型
重い	a. 身心	体	①②
		五感	③④⑤⑥
		心理	⑦⑧
	b. 程度	目方	⑨⑩⑪
		重要	⑫⑬⑭
		重大	⑮⑯⑰⑱
		過重	⑲⑱
	c. 動作	鈍い	⑳㉑

通的な意味属性によって結びついている。また、③各類型間の関連性をメタファー、メトニミー、シネクドキーで説明することができる。従って、形容詞の多義性は、それに修飾された名詞のカテゴリー化によって解明できると考える。このアプローチの利点は、上述した先行研究において、形容詞の多義性に関する“区別する時の精度の違い”や“意味的な基準の取り方の違い”などの問題点を克服できると思われる。そして、形容詞の多義性に対する理解は、形容詞のみに止まらず、より俯瞰的な理解もできると言える。また、形容詞の多義性に関する学習及び研究に新たな思考ルートが提示出来たと考える。

注

- 1) 森田良行 (1984) P.138とP.172を参照されたい。
- 2) 青谷法子 (2004) P.68を参照されたい。

- 3) 国広哲弥 (1997) P.174を参照されたい。
- 4) 伊藤健人 (2003) P.40を参照されたい。
- 5) メタファー・シネクドキー・メトニミーについての定義詳細は、初山洋介 (1997) P.31を参照されたい。
- 6) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) は大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発したもので、インターネットで公開されている。BCCWJには、現代の日本語の書き言葉の全体像を把握できるように集められたサンプルが約1億語収録されています。
<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

参考文献

- 森田良行 (1984) 基礎日本語Ⅰ 角川書店 P.138 - P.172
- 青谷法子 (2004) 形容詞「重い」の意味類推についての研究 東海学園大学研究紀要第9号 (分冊2) P.67 - P.80
- 楊婧璋 (2012a) 軽重を表す形容詞「軽い」「重い」“轻”“重”についての日中対照研究.日中語彙研究 第2号P.25 - P.47
- 楊婧璋 (2012b) 軽重を表す形容詞「軽い」「重い」の装定と述定について.言語科学論集第16号P.63 - P.71
- 国広哲弥 (1997) 理想の国語辞典 大修館書店P.174
- 伊藤健人 (2003) 動詞の意味と構文の意味. 明海日本語8号P.39 - P.52
- 初山洋介 (1997) 慣用句の体系的分類 名古屋大学国語国文学80 P.29 - P.43
- 吉村公宏 (2004) 初めての認知言語学 研究社

Analysis of Polysemous Words Using Category Theory: Example Provided by the Adjective “Heavy”

Mao Yong, Cao Jieping

Abstract : It has been pointed that there is a

problem in the elucidation of an adjective's own polysemy or the polysemy of the word level by conventional language dictionary interpretation. Based on the category theory of cognitive linguistics, we took a new approach of considering the polysemy of an adjective from the angle of the noun embellished by the adjective in a sentence level of attributive modification statement. As a case study, we can set the noun embellished by the adjective "heavy" as one category, and therefore can understand the polysemy of an adjective "heavy" in bird's-eye view by investigation of category-izing and the relevance between the composition of the category and a member.

Keyword: "heavy", category, categorization, type